

# Vol.20 No.1 '97

1997年11月30日 発行 目次

第28回日本消化吸収学会総会を終えて .....	5
日本大学 第3内科 荒川泰行	
〈特別講演 I〉	
クローン病の栄養療法— 問題点とその対策 .....	6
国立国際医療センター 院長 梅田典嗣	
〈特別講演 II〉	
小腸の消化吸収機能に見る進化の妙 .....	19
静岡県立大学 学長 星 猛	
〈教育講演 I〉	
消化管の運動機能調整 .....	27
群馬大学生体調節研究所 伊藤 漸	
〈教育講演 II〉	
炎症・免疫系からみた小腸の病態生理—消化吸収との関連について— .....	29
慶應義塾大学 消化器内科 三浦総一郎	
〈サテライト講演〉	
味覚と消化吸収— 脳による神経性および液性調節— .....	41
味の素株式会社 中央研究所 鳥居邦夫	
〈ランチョンセミナー〉	
Crohn病に合併する腸閉塞症状の内科的治療の試み— 大建中湯の有用性 .....	48
社会保険中央総合病院 内科 高添正和	
〈シンポジウム I〉	
消化・吸収の分子生物学的研究の進歩(司会総括) .....	54
静岡県立大学 食品栄養科学部生理 鈴木裕一	
徳島大学 医学部病態栄養学 武田英二	
$\alpha_1$ -antitrypsinの産生調節と消化管クリアランス .....	56
大阪医科大学 第2内科 小島敬史 他	
RT-PCRによるモルモット大腸バソプレシンV1レセプターの存在について .....	61
浜松医科大学 第1内科 佐藤嘉彦 他	
回腸上皮細胞における胆汁酸結合蛋白の発現調節機構に関する分子生物学的研究 .....	64
新潟大学 第1外科 神田達夫 他	
食餌性糖質によるラクターゼ・フロリジン水解酵素(LPH)の発現誘導 .....	65
静岡県立大学食品栄養科学部 栄養生理 田中竹美 他	

<b>エンテロペプチダーゼのクローニングとその遺伝子発現調節の検討</b> .....	70
東京大学医学部 第1内科 矢作直久 他	
<b>シスチン尿症原因遺伝子(NBAT)のマウスホモログのクローニングとその生理機能</b> .....	74
徳島大学医学部 病態栄養 瀬川博子 他	
<b>腸管内基質オリゴペプチドによるペプチド輸送担体PepT1の発現調節</b> .....	78
滋賀医科大学 第2内科 辻川知之 他	
<b>消化管粘膜傷害時に見られるペプチド輸送担体(PepT1)遺伝子発現の検討</b> .....	82
徳島大学 病態栄養学 田中裕子 他	
〈シンポジウムⅡ〉	
<b>消化管の病態栄養の新しい展望(司会総括)</b> .....	85
大阪大学小児外科 岡田 正	
日本大学 第3内科 岩崎有良	
<b>クローン病の在宅経腸栄養療法における魚油投与の意義</b> .....	87
兵庫医科大学 第4内科 福田能啓 他	
<b>EDのCrohn病術後再発予防効果</b> .....	88
横浜市立市民病院 外科 小金井一隆 他	
<b>小腸大量切除例における尿素サイクル構成アミノ酸、アンモニア原性アミノ酸の検討</b> .....	92
大阪大学 小児外科 飯干泰彦 他	
<b>慢性肝疾患に合併する二次性骨粗鬆症に関する臨床栄養学的検討</b> .....	93
日本大学 第3内科 鈴木吉知 他	
<b>脾外分泌障害患者における潜在的微量金属欠乏の臨床的検討</b> .....	97
弘前大学 第3内科 丹藤雄介 他	
DDW-Japan'97 シンポジウム9	
<b>消化器疾患の栄養のアセスメントとその治療対策(司会総括)</b> .....	101
日本大学 第3内科 荒川泰行	
山形大学 第2内科 高橋恒男	
<b>在宅経腸栄養療法中のクローン病再燃予測因子としての経口胆汁酸負荷試験の意義</b> .....	103
旭川医科大学 第3内科 榮浪克也 他	
<b>Dual Energy X-ray Absorptiometry (DEXA)を用いたクローン病患者の栄養評価</b> .....	104
滋賀医科大学 第2内科 辻川知之 他	
<b>大腸疾患の栄養アセスメントからの検討</b>	
— 使い捨てカメラを利用した食事栄養調査法の開発とその応用— .....	109
東京慈恵会医科大学附属柏病院 総合内科 中村 眞 他	
<b>慢性肝疾患患者に対する栄養評価と栄養学的治療</b> .....	113
日本大学 第3内科 鈴木吉知 他	

<b>肝硬変に対する間接熱量測定による栄養アセスメントの意義と治療対策</b> .....	117
岩手医科大学 第1内科 加藤章信 他	
<b>栄養アセスメントからみた肝細胞癌動注化学療法—経口分岐鎖アミノ酸製剤併用の有用性—</b> .....	121
鹿児島市立病院 消化器科 新上哲生	
<b>肝硬変患者のエネルギー代謝動態— 間接カロリーメーターを用いた検討—</b> .....	126
岐阜大学 医学部 第1内科 森脇久隆 他	
<b>肝硬変の栄養治療の指標としての血清総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比</b> .....	130
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 消化器内科 鈴木 博 他	
<b>慢性膵炎患者の栄養アセスメント</b> .....	136
弘前大学 第3内科 丹藤雄介 他	
<b>術後高カロリー輸液管理におけるRedox理論の栄養アセスメントとしての可能性</b> .....	140
東京慈恵会医科大学 外科 岡本友好 他	
<b>血清diamine oxidaseによる小腸粘膜機能の評価</b> .....	143
名古屋大学医学部 救急医学/集中治療部 真弓俊彦 他	

## あとがき

ついこの間までは暑い暑い夏と思っていたが、秋はドブルー効果的にやって来た。研究発表はかなり高度なものが増えてきた。論文の査読も燈火親しむレベルでの読み込みでは骨が折れる優秀な論文が増えている。かかる優秀な論文に対して学会賞がもうけられたことは会員の皆様はご承知の如くであります。

その審査委員の構成メンバーは7名で、学会庶務担当の荒川先生、会計担当の平塚先生と、その年の当番会長(今度は梅田先生)に加えて、編集委員から奥田編集委員長、臨床から朝倉先生と馬場先生、基礎から中川先生が選出されました。編集委員より4名が加わる事によりそれを送り出した編集部  
の責任は甚だ重いものとなって来た。しかし、全ての投稿論文を隅々まで知ることの出来る編集部ならば、厳粛に公平に忌憚のない意見が出る、即ち編集会議の厳しい議論を地でいけばそのまま正しい審査に繋がる事を考えればこれもまた実際的な構成であることも納得して頂けるであろう。因みに、学会費の優秀論文の審査基準として編集委員会が出た話は、学会を育てていく意味でもできるだけ若手の方(卒業年次等で判断)を対象に考えていくべきだというコンセンサスが得られた。審査委員は皆若手ではないがベテランであるので期待して戴きたい。若手の優秀論文の投稿を期待したい。

(N・M)